

## 「99式」日本語のローマ字表記方式(詳細)

### ウェブ版まえがき

この文書は、下記の文書をHTMLで転記したものです。

- 社団法人日本ローマ字会. 「99式」日本語のローマ字表記方式. Roomazi Sekai. No. 675, 1999-7, p.3-19.

あきらかなまちがいとおもわれる記述のみ、ウェブ版では修正してあります。以下が、ウェブ版での更新履歴です。

第1版(1999年4月24日発行)

初版

第1.1版(2001年5月20日発行)

例の「クエスチオン」のローマ字表記を、「kuwesutyon」から「kwesutyon」に修正。

第1.2版(2003年6月15日発行)

「C. 外来語の表記について」の「オ列ワ行拗音」を「ウ列ワ行拗音」に修正。

第1.3版(2003年8月15日発行)

「表5a」を「表4」に修正。

「表5b」を「表5」に修正。

「表5b」の「ウエ列ヤ行拗音をあらわすカナの例外」を「ウ列ヤ行拗音をあらわすカナ」に修正。

138欄の「wu」についていた「<sup>4</sup>」を削除。

第1.4版(2004年7月3日発行)

「I. カナ漢字からローマ字への変換」の「3『ふりがな方式』」の「B 長音の表記について」の「上記a」を「上記1」に修正。

表1bと表2bの表題のなかの、「濁音・半濁音」を「濁点・半濁点」に修正。

第1.5版(2004年7月5日発行)

表3aの142欄から()を削除。

表3c、表4、表5の188、191から197、199から202、204、205、208、211から215、221、224から226、229から231、235、246、240の各欄に()を追加。

第1.5.1版(2004年7月6日発行)

表6の241欄、242欄に<.>を追加。

以上の記述とこの段落は、ウェブ版のみにあるものです。以下の記述は、上記の修正をのぞき、原典のままです。(ただし、最後の最終更新日と著作権表示はウェブ版のみのものです。)

## 「99式」日本語のローマ字表記方式

第1版

1999年4月24日

社団法人日本ローマ字会

## 「99式」日本語のローマ字表記方式

1999年4月24日 第1版発行

発行所: 社団法人 日本ローマ字会

発行者: 社団法人 日本ローマ字会 会長 梅棹忠夫

© Copyright 社団法人日本ローマ字会 1999. All rights reserved.

## はじめに

この文書は、社団法人日本ローマ字会(以下「(社)日本ローマ字会」とかく)が提案する日本語のローマ字表記方式である「99式」(きゅうきゅうしき)の内容を説明したものです。

この「99式」の原案は、1996年2月11日に(社)日本ローマ字会の理事会において承認され、同会の機関誌“Roomazi Sekai”の1996年4月号(No. 636)で『「あたらしいローマ字つづり」(社)日本ローマ字会の案』として発表されました。その後、1996年5月3日の(社)日本ローマ字会の総寄合にて、当面のあいだ、(社)日本ローマ字会の「試案」として、試験的に使用してゆくことが承認されました。

その後、1999年4月24日の(社)日本ローマ字会の総寄合において、“Roomazi Sekai”の1998年12月号(No. 668)の別刷りで発表された修正案をとりいれたかたちで、(社)日本ローマ字会の日本語のローマ字つづり方式として正式に承認されるとともに、その名称を「99式」とさだめました。この名称の由来は、この方式が西暦1999年に作成されたことにちなむものです。

この方式は、今後(社)日本ローマ字会が発行するすべての文書のローマ字がき日本語文に対して適用されます。ただし、(社)日本ローマ字会の会員・非会員をとわず、個人、または(社)日本ローマ字会以外の団体が、その個人名・団体名で発表する文書に対しては、それが(社)日本ローマ字会が発行する文書の一部として掲載されるとしても、このかぎりではありません。

この文書に対するご質問、ご意見、ご要望などは、下記におよせください。

社団法人 日本ローマ字会

605-0011

京都市東山区三条通大橋東入ル4丁目七軒町17

電話: 075-771-0257, FAX: 075-751-6084

---

## I. カナ漢字からローマ字への変換

---

### A. 基本的原理

---

#### 1. 「翻字法としてのローマ字」

日本語のローマ字表記を、日本語をかきあらわす唯一無二の表記法、すなわち「正書法」としてのローマ字表記としてかんがえるのではなく、カナ漢字まじり表記が正書法であるあいだの、カナ漢字からローマ字への「翻字」(英語で transliteration) としてのローマ字表記としてかんがえます。

#### 2. 「カナにしたがう」

発音にもとづく「音にしたがったローマ字つづり」ではなく、基本的には音にしたがいながらも、最終的には「カナ文字でどうかかれてるか」にもとづく、「カナにしたがったローマ字つづり」としてかんがえます。

#### 3. 「ふりがな方式」

漢字、およびカタカナの長音記号(ー)は、「ふりがな」のカナ文字にしたがって、ローマ字にかきうつします。

---

### B. 長音の表記について

「翻字法としてのローマ字」、「カナにしたがう」、および「ふりがな方式」というみっつの原理によって、「長音の表記」という概念はなくなります。具体的には、これまでの「長音の表記」はつぎのようになります。(注: 「カナにしたがう」という原理により、これらの発音がほんとうに長音かどうかということは問題とはなりません。)

1. ひらがなの<あ><い><う><え><お>、およびカタカナの<ア><イ><エ><オ>でかきあらわされる長音は、カナのとおり<a><i><u><e><o>でかきます。

例: おとうさん otousan    おかあさん okaasan  
おねえさん oneesan    おにいさん oniisan  
おおきい ookii        ちいさい tiisai  
バレエ baree         ポウル bouru

2. 漢字は、「ふりがな」になおして、上記1の場合とおなじようにかきます。

例: 空港(くうこう) kuukou  
大阪(おおさか) Oosaka    京都(きょうと) Kyouto  
経済(けいざい) keizai    生命(せいめい) seimei

3. カタカナの長音記号(ー)は、直前の母音字でかきます。(幼児むけの絵本の「ふりがな」とおなじ。)

例: ブレーメン (ぶれえめん) Bureemen  
コンピューター (こんぴゅうたあ) konpyuutaa  
バレー (ばれえ) baree    ボール (ぼおる) booru

---

### C. 外来語の表記について

「翻字法としてのローマ字」という原理にもとづき、「99式」では、外来語を日本語の表記のなかにおいてどうかきあらわすべきかということにはふれません。ただし、「カナにしたがう」という原理にもとづいて、こんにちカナ文字表記において外来語をかきあらわすためにもちいられているあらゆるカナ文字つづり<sup>7)</sup>について、ローマ字つづりへの翻字の規則をさだめます。

つまり、英語の violin からきた外来語のカナ文字表記は<バイオリン>か<ヴァイオリン>かとか、外来語のなかで「完全に日本語化したもの」と「外国語としての意識がのこっているもの」の弁別とか、外来語をカタカナでかきか、もとの言語での文字のつづりのまま

かくか、とかいったことに結論をだすのではなく、「翻字法としてのローマ字」という原理にもとづき、カナ文字表記でのゆれはそのままに、しかしもれなく、ローマ字にかきうつすことができるようにします。

また、ここでも、「カナにしたがう」、および「ふりがな方式」の原理にもとづき、発音ではなく、カナ文字でどうかかれているかによってローマ字にかきうつします。

具体的には、つぎのように、母音字と子音字のあいだに<y>か<w>か<j>をいれます。

1. イ列のカナ+ちいさい<ヤ><イ><ユ><エ><ヨ> (イ列ヤ行拗音をあらわすカナ文字つづり) は、<-y>。

例: キヤ kya キイ kyi キユ kyu キエ kye キヨ kyo  
シヤ sya シイ syi シユ syu シエ sye シヨ syo

2. ウ列のカナ+ちいさい<ア><イ><ウ><エ><オ> (ウ列ワ行拗音をあらわすカナ文字つづり)は、<-w>。

例: クア kwa クイ kwi クウ kwu クエ kwe クオ kwo  
スア swa スイ swi スウ swu スエ swe スオ swo

例外:

- i. ファ行、ホア行、フヤ行

ファ行のカナ文字つづりのローマ字つづりは、この規則にしたがうと<hw->となる場所ですが、国内における現在の慣習<sup>4)5)6)</sup>とタイプのしやすさを考慮し、これらはホア行のつづりとし、ファ行は<f->とします。また、フヤ行は<fy->とします。

ファ fa フィ fi フウ fu フェ fe フオ fo  
ホア hwa ホイ hwi ホウ hwu ホエ hwe ホオ hwo  
フヤ fya フユ fyu フヨ fyo

- ii. ツア行、ヅア行、トア行

ツア行のカナ文字つづりのローマ字つづりは、この規則にしたがうと<tw->となる場所ですが、つづりと発音の関係の国際的なうけいられやすさを考慮し、これらはトア行のつづりとし、ツア行は<ts->とします。

ツア行のカナ文字に濁点がついたヅア行のカナ文字つづりのローマ字つづりは、<t->でかくタ行に濁点がついたダ行が<d->、<s->でかくサ行に濁点がついたザ行が<z->ですから、本来<dz->となる場所ですが、<ジ><ヂ><ズ><ヅ>(いわゆる「よつがな」)のローマ字つづりの区別については、現在の公的標準<sup>2)3)4)5)</sup>にならい、ズア行と区別せずに<zw->でかくことを基本とします。しかし、ズア行とヅア行とを厳密に区別する必要があるときには、ヅア行を<dz->でかくことにします。

ツア tsa ツイ tsi ツウ tsu ツエ tse ツオ tso  
ヅア zwa [dza] ズイ zwi [dzi] ズウ zwu [dzu] ズエ zwe [dze] ズオ zwo [dzo]  
トア twa トイ twi トウ twu トエ twe トオ two

3. エ列のカナ+ちいさい<ヤ><イ><ユ><エ><ヨ> (エ列ヤ行拗音をあらわすカナ文字つづり) は、<-j>。

テヤ tja テイ tji テユ tju テエ tje テヨ tjo  
デヤ dja デイ dji デユ dju デエ dje デヨ djo

4. ヴァ行のカナ文字つづりは、英語の /v/ 音(有声歯唇摩擦音)をあらわすつづりなので、そのローマ字つづりは<v->とします。ただし、じっさいに英語の /v/ 音で発音しているかどうかは問題とせず、カナ文字で<ヴ>とかかれているかどうかにかかっています。また、ヴァ行は<vy->でかきます。

ヴァ va ヴィ vi ヴュ vu ヴェ ve ヴォ vo  
ヴァ vya ヴュ vya ヴョ vyo

## D. <ち><チ>、<つ><ツ>の表記について

はじめに、これは「カナにしたがう」という原理の基本的なことからですが、直音をあらわすカナ文字つづり、すなわち拗音化をあらわすちいさいカナ文字の<ヤ><ユ><ヨ><ア><イ><ウ><エ><オ>をとみなわずに、おおきいカナ文字1文字だけであらわされるカナ文字つづりは、その発音をよりどころとするのではなく、五十音図において「どの行のどの列の文字か」にもとづいてローマ字にかきうつします。「行」は子音に対応し、「列」は母音に対応します。(注: 前節Cですでのべた拗音をあらわすカナ文字つづりは、この直音をあらわすローマ字つづりの母音字と子音字とのあいだに、前節Cでのべた規則によって<y>か<w>か<j>をいれてかきあらわすのです。)

まず、母音をあらわすア行のカナ文字である、ひらがなの<あ><い><う><え><お>、およびカタカナの<ア><イ><ウ><エ><オ>のローマ字つづりは、<a><i><u><e><o>とします。(注: この基本的な部分では音にしたがっています。すなわち、<a><i><u><e><o>のローマ字の国際的に一般的とおもわれる発音にもとづいて、カナ文字との対応をきめています。)

カ行のカナ文字、ひらがなの<か><き><く><け><こ>、およびカタカナの<カ><キ><ク><ケ><コ>は、母音字のまえにkをつけて、<ka><ki><ku><ke><ko>とかきあらわします。同様に、サ行は<s>、タ行は<t>、ナ行は<n>、ハ行は<h>、マ行は<m>…、といったぐあいです。(注: この部分も、基本的に母音字のときとおなじように音にしたがっています。すなわち、各行のカナ文字の発音の代表的とおもわれる子音と、それぞれのローマ字の国際的に一般的とおもわれる発音にもとづいて、カナ文字との対応をきめています。)

つまり、現在おこなわれている国内標準<sup>2)</sup>、あるいは国際標準<sup>3)</sup>と同様に、<ち><チ>というカナ文字は<ti>というローマ字つづりで、<つ><ツ>というカナ文字は<tu>というローマ字つづりでかかっていますが、これらは、かつて日本式ローマ字つづりがヘボン式ローマ字つづりに対しておこなったように音韻論にもとづいて正当化されるのでありません。つまり、<ち><チ>というカナ文字や<つ><ツ>というカナ文字の発音がどうだからとか、こうだからとかいうことではなくて、それぞれ、「タ行のイ列の文字」だから<t>と<i>で<ti>とかき、「タ行のウ列の文字」だから<t>と<u>で<tu>とかく、という原理によって正当化されるのです。

---

## E. <へ><ヘ>、<は><ハ>、<を><ヲ>の表記について

「カナにしたがう」という原理にもとづくと、助詞の、/エ/と発音する<へ><ヘ>のカナ文字と、/ワ/と発音する<は><ハ>のカナ文字は、それぞれ<he><ha>とかくこととなります。こんにち一般におこなわれている、いわゆる「訓令式」<sup>1)2)</sup>や「ヘボン式」<sup>4)5)6)</sup>では、音にしたがって<e><wa>とかくことが慣習となっていますし、国際標準<sup>3)</sup>や米国標準<sup>4)</sup>、英国標準<sup>5)</sup>でも、音にしたがって<e><wa>とかくことになっています。「99式」では、例外としてこれらの習慣を尊重することにします。助詞の<を><ヲ>も同様に<wo>ではなく<o>とかきまします。ただし、国際標準<sup>3)</sup>にも「厳密翻字」(英語で stringent transliteration)として規定されているとおり、カナ文字のとおり<he><ha><wo>とかいてもよいことにします。

そのほかの、カナ文字つづりとローマ字つづりの対応の全貌については、付録Aの表1aから表6を参照してください。

---

## II. わかちがき

1. 柴田武博士が提唱する「東大システム」のおおわくを尊重し、最小限以下の主要点をふまえたものとします。(「田丸文法」<sup>8)</sup>は基準としません。)
2. 単語は、自立語、付属語にかかわらず、一部の例外をのぞいて独立させ、ひとつづりにかか。

例外 a.

形容動詞は原則として語幹と活用語尾「だ」を分割し、語幹、語尾ともいつも独立させます。(形容動詞完全分割)

例: kirei da, kirei darou, kirei datta, kirei de, kirei ni, kirei na, kirei nara

例外 b.

助動詞のうち、「そうだ/そうです」(伝聞)、「そうだ/そうです」(様態)、「ようだ/ようです/みたいだ/みたいです」(比況/推量)は、語幹と活用語尾「だ」を分割し、語尾はいつも独立させます。

例: kaku sou da, kakisou da(例外cを参照), kaku you da, kaku mitai desu

例外 c.

助動詞のうち、「せる/させる」、「れる/られる」、「たい」、「ない/ぬ/ん」、「た/だ」(完了)、「う/よう」(推量/未来)、および「そうだ/そうです」(様態)の語幹は、まえにたつ活用語につなぎます。

例: kakaseru, kotaesaseru, kakareru, kotaerareru, kakitai, kakanai, kakanu, kaita, yonda, kakou, kotaeyou, kakisou da

例外 d.

助詞のうち、接続助詞の「ば」、「て/で」、「たり/だり」は、まえにたつ活用語につなぎます。

例: kakeba, kaite, yonde, kaitari, yondari

例外 e.

サ変動詞「する」と名詞・副詞などの単語との複合語は、ひとつづりにせず、それぞれをいつも独立させます。

例: koi suru, renraku suru, son suru, gakkari suru

3. 名詞は、一般に小文字はじめとする。(普通名詞を大文字はじめにはしない。)

### III. 参考文献

1. 昭和十二年九月二十一日内閣訓令第三號『国語ノローマ字綴方統一ノ件』, 大蔵省印刷局, 1937年
2. 昭和二十九年二月九日内閣告示第一号『ローマ字のつづり方』, 大蔵省印刷局, 1954年
3. ISO 3602:1989 Documentation -- Romanization of Japanese (kana script), International Organization for Standardization, 1989年
4. ANSI Z39.11-1972 American National Standard System for the Romanization of Japanese, American National Standards Institute, 1972年
5. BS 4812:1972 BRITISH STANDARD SPECIFICATION FOR THE ROMANIZATION OF JAPANESE, BRITISH STANDARDS INSTITUTION, 1972年
6. J. C. ヘボン(編), 『和英語林集成』(第三版), 1887年
7. 平成三年六月二十八日内閣告示第二号『外来語の表記』, 大蔵省印刷局, 1991年
8. 田丸卓郎(著), 『ローマ字文の研究』, 財団法人日本のローマ字社, 1920年

## 付録

### 付録A. カナ文字からローマ字への翻字表

凡例:

- \* 平成三年六月二十八日内閣告示第二号『外来語の表記』(1991年)の第1表の右欄にふくまれるカナ文字つづり。
- \*\* 平成三年六月二十八日内閣告示第二号『外来語の表記』(1991年)の第2表にふくまれるカナ文字つづり。
- ( ) 昭和二十九年十二月九日内閣告示第一号『ローマ字のつづり方』(1954年)の第1表、および ISO 3602:1989 のいずれにもふくまれないカナ文字つづりとローマ字つづり。
- [ ] 厳密翻字(とくにもとのカナに忠実にかきうつす必要があるときにつかう。)

表1a 直音をあらわすカナ

	ア列 -a	イ列 -i	ウ列 -u	エ列 -e	オ列 -o
ア行	1 あ ア a	2 い イ i	3 う ウ u	4 え エ e	5 お オ o
カ行	6 か カ ka	7 き キ ki	8 く ク ku	9 け ケ ke	10 こ コ ko
サ行	11 さ サ sa	12 し シ si	13 す ス su	14 せ セ se	15 そ ソ so
タ行	16 た タ ta	17 ち チ ti	18 つ ツ tu	19 て テ te	20 と ト to
ナ行	21 な ナ na	22 に ニ ni	23 ぬ ヌ nu	24 ね ネ ne	25 の ノ no
ハ行	26 は ハ ha <sup>1</sup>	27 ひ ヒ hi	28 ふ フ hu	29 へ ヘ he <sup>2</sup>	30 ほ ホ ho
マ行	31 ま マ ma	32 み ミ mi	33 む ム mu	34 め メ me	35 も モ mo
ヤ行	36 や ヤ ya	37 (しい イイ yi)	38 ゆ ユ yu	39 いえ イエ** ye	40 よ ヨ yo
ラ行	41 ら ラ ra	42 り リ ri	43 る ル ru	44 れ レ re	45 ろ ロ ro
ワ行	46 わ ワ wa <sup>4</sup>	47 (ゐ ヰ wi <sup>4</sup> )	48 (空白)	49 (ゑ エ we <sup>4</sup> )	50 を ヲ o [wo <sup>5</sup> ]

表1b 直音をあらわすカナ(濁点・半濁点がつくもの)

ガ行	51 が ガ ga	52 ぎ ギ gi	53 ぐ グ gu	54 げ ゲ ge	55 ご ゴ go
ザ行	56 ざ ザ za	57 じ ジ zi	58 ず ズ zu	59 ぜ ゼ ze	60 ぞ ゾ zo

ダ行	61	62	63	64	65
d-	だ ダ da	ぢ ヂ zi [di³]	づ ヅ zu [du³]	で デ de	ど ド do
バ行	66	67	68	69	70
b-	ば バ ba	び ビ bi	ぶ ブ bu	べ ベ be	ぼ ボ bo
パ行	71	72	73	74	75
p-	ぱ パ pa	ぴ ピ pi	ぷ プ pu	ぺ ペ pe	ぽ ポ po

表2a イ列ヤ行拗音をあらわすカナ

	ア列 -a	イ列 -i	ウ列 -u	エ列 -e	オ列 -o
キヤ行 ky-	76 きや キヤ kya	77 (きい キイ kyi)	78 きゅ キュ kyu	79 (きえ キエ kye)	80 きよ キヨ kyo
シヤ行 sy-	81 しや シヤ sya	82 (しい シイ syi)	83 しゅ シュ syu	84 しえ シエ* sye	85 しよ シヨ syo
チャ行 ty-	86 ちや チャ tya	87 (ちい チイ tyi)	88 ちゅ チュ tyu	89 ちえ チエ* tye	90 ちよ チヨ tyo
ニヤ行 ny-	91 にや ニヤ nya	92 (にい ニイ nyi)	93 にゅ ニュ nyu	94 (にえ ニエ nye)	95 によ ニヨ nyo
ヒヤ行 hy-	96 ひや ヒヤ hya	97 (ひい ヒイ hyi)	98 ひゅ ヒュ hyu	99 (ひえ ヒエ hye)	100 ひよ ヒヨ hyo
ミヤ行 my-	101 みや ミヤ mya	102 (みい ミイ myi)	103 みゅ ミュ myu	104 (みえ ミエ mye)	105 みよ ミヨ myo
リヤ行 ry-	106 りや リヤ rya	107 (りい リイ ryi)	108 りゅ リュ ryu	109 (りえ リエ rye)	110 りよ リヨ ryo

表2b イ列ヤ行拗音をあらわすカナ(濁点・半濁点がつくもの)

	ア列 -a	イ列 -i	ウ列 -u	エ列 -e	オ列 -o
ギヤ行 gy-	111 ぎや ギヤ gya	112 (ぎい ギイ gyi)	113 ぎゅ ギュ gyu	114 (ぎえ ギエ gye)	115 ぎよ ギヨ gyō
ジヤ行 zy-	116 じや ジヤ zya	117 (じい ジイ zyi)	118 じゅ ジュ zyu	119 じえ ジエ* zye	120 じよ ジヨ zyo
ヂヤ行 zy- [dy-]	121 ぢや ヂヤ zya [dya³]	122 (ぢい ヂイ zyi) [dyi³]	123 ぢゅ ヂュ zyu [dyu³]	124 ぢえ ヂエ zye [dye³]	125 ぢよ ヂヨ zyo [dyo³]
ビヤ行 by-	126 びや ビヤ bya	127 (びい ビイ byi)	128 びゅ ビュ byu	129 (びえ ビエ bye)	130 びよ ビヨ byo
ピヤ行 py-	131 ぴや ピヤ pya	132 (ぴい ピイ pyi)	133 ぴゅ ピュ pyu	134 (ぴえ ピエ pye)	135 ぴよ ピヨ pyo

表3a ウ列ワ行拗音をあらわすカナ

	ア列 -a	イ列 -i	ウ列 -u	エ列 -e	オ列 -o
ウア行 w-	136 (うあ ウア wa <sup>4</sup> )	137 うい ウイ** wi <sup>4</sup>	138 (うう ウウ wu)	139 うえ ウエ** we <sup>4</sup>	140 うお ウオ** wo <sup>5</sup>
クア行 kw-	141 くあ クア** kwa	142 くい クイ** kwi	143 (くう クウ kwu)	144 くえ クエ** kwe	145 くお クオ* kwo
スア行 sw-	146 (すあ スア swa)	147 (すい スイ swi)	148 (すう スウ swu)	149 (すえ スエ swe)	150 (すお スオ swo)
ヌア行 nw-	151 (ぬあ ヌア nwa)	152 (ぬい ヌイ nwi)	153 (ぬう ヌウ nwu)	154 (ぬえ ヌエ nwe)	155 (ぬお ヌオ nwo)
ムア行 mw-	156 (むあ ムア mwa)	157 (むい ムイ mwi)	158 (むう ムウ mwu)	159 (むえ ムエ mwe)	160 (むお ムオ mwo)
ルア行 rw-	161 (るあ ルア rwa)	162 (るい ルイ rwi)	163 (るう ルウ rwu)	164 (るえ ルエ rwe)	165 (るお ルオ rwo)

表3b ウ列ワ行拗音をあらわすカナ(濁点・半濁点がつくもの)

	ア列 -a	イ列 -i	ウ列 -u	エ列 -e	オ列 -o
グァ行 gw-	166 ぐあ グァ** gwa	167 (ぐい グィ gwi)	168 (ぐう グウ gwu)	169 (ぐえ グェ gwe)	170 (ぐお グオ gwo)
ズァ行 zw-	171 (ずあ ズァ zwa)	172 (ずい ズィ zwi)	173 (ずう ズウ zwu)	174 (ずえ ズェ zwe)	175 (ずお ズオ zwo)
ブァ行 bw-	176 (ぶあ ブァ bwa)	177 (ぶい ブィ bwi)	178 (ぶう ブウ bwu)	179 (ぶえ ブェ bwe)	180 (ぶお ブオ bwo)
プァ行 pw-	181 (ぷあ プァ pwa)	182 (ぷい プィ pwi)	183 (ぷう プウ pwu)	184 (ぷえ プェ pwe)	185 (ぷお プオ pwo)

表3c ウ列ワ行拗音をあらわすカナの例外、およびオ列ワ行拗音をあらわすカナ

	ア列 -a	イ列 -i	ウ列 -u	エ列 -e	オ列 -o
ツァ行 ts-	186 つあ ツァ* tsa	187 つい ツィ** tsi	188 (つう ツウ tsu)	189 つえ ツェ* tse	190 つお ツオ* tso
ヅァ行 zw- [dz-]	191 (づあ ズァ zwa [dza <sup>3</sup> ])	192 (づい ズィ zwi [dzi <sup>3</sup> ])	193 (づう ズウ zwu [dzu <sup>3</sup> ])	194 (づえ ズェ zwe [dze <sup>3</sup> ])	195 (づお ズオ zwo [dzo <sup>3</sup> ])
トァ行 tw-	196 (とあ トァ twa)	197 (とい トィ twi)	198 とう トウ** twu	199 (とえ トェ twe)	200 (とお トオ two)
ドァ行 dw-	201 (どあ ドァ dwa)	202 (どい ドィ dwi)	203 どう ドウ** dwu	204 (どえ ドェ dwe)	205 (どお ドオ dwo)
ファ行 f-	206 ふあ ファ* fa	207 ふい フィ* fi	208 (ふう フウ fu)	209 ふえ フェ* fe	210 ふお フオ* fo
ホァ行 hw-	211 (ほあ ホァ hwa)	212 (ほい ホィ hwi)	213 (ほう ホウ hwu)	214 (ほえ ホェ hwe)	215 (ほお ホオ hwo)
ヴァ行 v-	216 うあ ヴァ** va	217 うい ヴィ** vi	218 う ヴ** vu	219 うえ ヴェ** ve	220 うお ヴオ** vo

表4 エ列ヤ行拗音をあらわすカナ

	ア列 -a	イ列 -i	ウ列 -u	エ列 -e	オ列 -o
テヤ行 tj-	221 (てや テヤ tja)	222 てい ティ* tji	223 てゆ テュ** tju	224 (てえ テェ tje)	225 (てよ テョ tjo)
デヤ行 dj-	226 (でや デヤ dja)	227 でい ディ* dji	228 でゆ デュ* dju	229 (でえ デェ dje)	230 (でよ デョ djo)

表5 ウ列ヤ行拗音をあらわすカナ

	ア列 -a	イ列 -i	ウ列 -u	エ列 -e	オ列 -o
フヤ行 fy-	231 (ふや フヤ fya)	232 (空白)	233 ふゆ フュ** fyu	234 (空白)	235 (ふよ フョ fyo)
ヴヤ行 vy-	236 (うゃ ヴャ vya)	237 (空白)	238 う`ゆ ヴュ** vyu	239 (空白)	240 (う`よ ヴョ vyo)

表6 特殊音をあらわすカナ

241 ん (はねる音のカナ) n ただし、母音字 <sup>6</sup> や、 y、w のまえては n'。	242 っ (つまる音のカナ) 直後の子音字 <sup>7</sup> で かきあらわす。	243 ー (長音記号) 直前の母音字 <sup>6</sup> で かきあらわす。
--	---	--

注

1. 助詞の、/ワ/と発音する<は><ハ>は、<wa>とかくことを基本としますが、カナ文字のとおり<ha>とかいてもよいことにします。
2. 助詞の、/エ/と発音する<へ><ヘ>は、<e>とかくことを基本としますが、カナ文字のとおり<he>とかいてもよいことにします。

3. <じ><ジ>と<ぢ><ヂ>、および<ず><ズ>と<づ><ヅ>は、ふつうは区別せずにすべて<z->でかきますが、<じ><ジ>を<ぢ><ヂ>と、および<ず><ズ>を<づ><ヅ>と、それぞれ厳密に区別する必要があるときには、<d->をつかって [ ] でかこんだつづりのようにかきます。
4. つぎのカナは、ふつうは区別せずに<w->でかきます。
  - <わ><ワ>と<うあ><ウア>
  - <ゐ><ヰ>と<うい><ウイ>
  - <ゑ><ヱ>と<うえ><ウエ>
5. <を><ヲ>と<うお><ウオ>は、ふつうはそれぞれ<o>と<wo>とかきますが、<を><ヲ>を<お><オ>と厳密に区別する場合には、<を><ヲ>を<wo>とかきます。
6. 「母音字」とは、<a>、<i>、<u>、<e>、<o>をさします。
7. 「子音字」とは、母音字でも<y>でも<w>でも<j>でもないローマ字をさします。

## 付録B. 外来語のローマ字つづりの例

ビール <i>biiru</i>	ソース <i>soosu</i>
モーターボート <i>mootaabooto</i>	バレーボール <i>bareebooru</i>
バレエ <i>baree</i>	ミイラ <i>miira</i>
レイアウト <i>reiauto</i>	サラダボウル <i>saradabouru</i>
ジェット <i>zyetto</i>	チエス <i>tyesu</i>
コンツェルン <i>kontserun</i>	ボランティア <i>borantjia</i>
ファイル <i>fairu</i>	フィルター <i>firutaa</i>
フェスティバル <i>fesutjibaru</i>	フオーク <i>fooku</i>
ドン・ホアン <i>Don Hwan</i>	ホイール <i>hwiiiru</i>
デュエット <i>djuetto</i>	プロデューサー <i>purodjuusaa</i>
イエルサレム <i>yerusaremu</i>	ウイスキー <i>wisukii</i>
ウイスキー <i>uisukii</i>	ウキスキー <i>uwisukii</i>
スウェーデン <i>suweedan</i>	ウオーキング <i>wookingu</i>
クアルテット <i>kwarutetto</i>	クインテット <i>kwintetto</i>
クエスチョン <i>kwestyon</i>	クオーク <i>kwooku</i>
グアテマラ <i>gwatera</i>	ツィーター <i>tsiitaa</i>
ヒンドウー <i>hindwuu</i>	チューバ <i>tjuuba</i>
フュージョン <i>fyuuzyon</i>	レヴュー <i>revyuu</i>

最終更新日: 2004年7月6日